

いじめ未然防止モデルプログラム 活動のマトリクス

		ア 道徳、総合的な探究の時間、特別活動等の教科・領域の関連を図ったプログラム	イ 生徒会活動との関連を図ったプログラム	ウ 社会教育(家庭や地域)と連携した体験活動との関連を図ったプログラム	エ (その他)道徳教育・人権教育・情報モラル教育等との関連を図ったプログラム
①居場所 じくすり	教師が主体	【A 地域フィールドワーク研修】 ・人間関係づくりを重点とした多様な活動を行う。	【D アセス、「ほっと!」】 ・生徒理解支援ツールを通して、効果的に面談を進めていけるよう工夫する。	【G 社会人講話】 ・地元の企業の方々より、進路決定へ向けて、経験を活かした助言をもらう。	【J①交通安全講話】 【J②薬物乱用防止教室】 ・警察署等関係機関から講師を招き、具体的な事例を基に学習する。
②絆 じくすり	生徒が主体	【B 対面式】 ・新入生に生徒会の組織や学校行事、部活動などを紹介し、温かく迎える雰囲気を醸成する。	【E Noケータイ day】 ・携帯電話・スマートフォンを終日使用せず、昼休みに図書室で交流を図るなどのコミュニケーションを生徒会主導で行う。	【H インターンシップ】 ・勤労観を養うとともに、地域社会とのつながりを実感する場とする。	【K 啓発ポスターの作成】 ・校規指導委員が中心となり、SNS 使用等の啓発ポスターを作成する。
③環境 じくすり	いずれかが主体	【C クリーン作戦】 ・生徒会美化委員が中心となり主に通学路やJR駅周辺を清掃する。	【F 留高祭、生徒会企画】 ・全生徒が協力して取り組む企画を計画することで、学校への帰属意識を高める。	【I 総合学科研究発表会】 ・キャリア教育を通して学んだことをまとめ発表・報告する。	【L 体験入学会】 ・中学生向けの体験入学会で、生徒が主体となり説明する。